箕面市立病院
内科専門医プログラム

2027年度

箕面市立病院

箕面市立病院内科専門医プログラム

目次

１．理念・使命・特性　１
２．内科専門医研修はどのように行われるのか　３
３．専門医の到達目標項目　５
４．各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得　６
５．学問的姿勢　７
６．医師に必要な倫理性、社会性　７
７．研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方　７
８．年次毎の研修計画　８
９．専門医研修の評価　９
１０．専門研修プログラム管理委員会　１０
１１．専攻医の就業環境（労務管理）　１０
１２．専門研修プログラムの改善方法　１０
１３．終了判定　１１
１４．専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと　１１
１５．研修プログラムの施設群　１１
１６．専攻医の受入数　１１
１７．Subspecialty 領域　１２
１８．研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件　１３
１９．専門研修指導医　１３
２０．専門研修実績記録システム、マニュアル等　１３
２１．研修に対するサイトビジット（訪問調査）　１４
２２．専攻医の採用と修了　１４
■別紙１ 箕面市立病院内科専門医研修施設群 箕面市立病院内科専門医プログラム　１５
■別紙２ 内科基本コース及び Subspecialty 重点コースの内容　１７
■別紙３ 専門研修基幹施設、各連携施設概要　３０
■別紙４ 箕面市立病院内科専門医プログラム管理委員会　４７

箕面市立病院内科専門医プログラム

1. 理念・使命・特性

(1) 理念【整備基準 1】

① 本プログラムは、大阪府の箕面市にある公立病院である箕面市立病院を基幹施設として、豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設と共に内科専門研修を経て豊能医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して、複数のコース別に研修をおこなって内科専門医の育成を行います。

② 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間（あるいは 2 連携施設、それぞれ 6 ヶ月間や 9 ヶ月間と 3 ヶ月間など（別紙 1 参照））に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で内科専門医制度に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

③ 内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力を指します。また、知識や技能に偏らず、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。

(2) 使命【整備基準 2】

① 内科専門医として、[1]高い倫理観を持ち、[2]最新の標準的医療を実践し、[3]安全な医療を心がけ、[4]プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

② 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

③ 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

④ 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

(3) 特性

① 本プログラムは、箕面市立病院を基幹施設として、豊能医療圏・近隣医療圏の必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練

されます。研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間（あるいは 2 連携施設、それぞれ 6 ヶ月間や 9 ヶ月間と 3 ヶ月間など（別紙 1 参照））の 3 年間です。

② 本研修プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じ、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

③ 基幹施設である箕面市立病院での 2 年間に内科専門医制度に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）（以下、J-OSLER という ）に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。

④ 連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、原則として 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。

⑤ 専攻医 3 年修了時で、内科専門医制度に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できる体制とします。そして可能な限り、70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします。

(4) 専門研修後の成果【整備基準 3】

① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。

② 内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。

③ 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合内科医療を実践します。

④ 総合内科的視点を持った Subspecialist：病院での内科系の Subspecialty を受け持つ中で、総合内科（Generalist）の視点から、内科系 Subspecialist として診療を実践します。

⑤ 本プログラムでは箕面市立病院を基幹病院として、多くの連携施設と病院群を形成しています。複数の施設での経験を積むことにより、様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

2. 内科専門医研修はどのように行われるのか[整備基準：13～16、30]

(1) 研修段階の定義：内科専門医は 2 年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（専攻医研修）3 年間の研修で育成されます。

(2) 専門研修の 3 年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める内科専門医制度「研修カリキュラム」（別添）にもとづいて内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で示します。

(3) 臨床現場での学習：日本内科学会では内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。J-OSLER への登録と指導医の評価と承認とによって目標達成までの段階を up-to-date に明示することとします。各年次の到達目標は以下の基準を目安とします。

① 専門研修 1 年

a. 症例：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、20 疾患群以上を経験し J-OSLER に登録することを目標とします。
b. 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。
c. 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

② 専門研修 2 年

a. 疾患：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、通算で 45 疾患群以上を（できるだけ均等に）経験し、J-OSLER に登録することを目標とします。
b. 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。
c. 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

③ 専門研修 3 年

a. 疾患：主担当医として、カリキュラムに定める全 70 疾患群、計 200 症例の経験を目標とします。但し、修了要件はカリキュラムに定める 56 疾患、そして 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）とします。 この経験症例内容を J-OSLER へ登録します。 既に登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。

b. 技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。
c. 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修 2 年次に行った評価につ

いての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。 また、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

d. なお、J-OSLER の登録内容と適切な経験と知識の修得状況は指導医によって承認される必要があります。

e. 専門研修 1-3 年を通じて行う現場での経験

＜内科研修プログラムの週間スケジュール：循環器内科の例＞

（ピンク部分）は特に教育的な行事です。

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td colspan="7">モーニングセミナー（年約 10 回）、ER 勉強会（年約 10 回）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td>ICU カンファレンス</td><td>ICU カンファレンス</td><td>ICU カンファレンス</td><td>ICU カンファレンス</td><td>ICU カンファレンス</td><td></td></tr>
<tr><td>病棟</td><td>病棟</td><td>カテーテル検査、治療</td><td>ER 担当
初期研修医指導</td><td>心筋シンチ
病棟</td><td>週末日当直（1/月）</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">午後</td><td rowspan="3">カテーテル検査、治療</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="3"></td><td>心臓 CT
MRI</td><td rowspan="2">循環器検査
心エコー・トレッドミル検査
Holter ECG 解析
24 時間 ABPM 解析</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>循環器カンファレンス</td></tr>
<tr><td>心臓 CT
ペースメーカーチェック</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>外来（2 年目以降）</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>内科系カンファレンス</td><td></td><td>CPC（1/2 月）</td><td>循環器抄読会、研究報告会</td><td>Weekly summary discussion</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="7">当直（2～3 回/月）</td></tr>
</table>

※ 専攻医 2 年目以降から初診を含む外来（1 回／週以上）を通算で 6 ヶ月以上行います。

※ 当直を経験します。

(4) 臨床現場を離れた学習

[1]内科領域の救急、[2]最新のエビデンスや病態・治療法について前期研修医・専攻医対象のモーニングセミナー（時にイブニングセミナーに変更）が開催されており、それを聴講し、学習します。 受講歴は登録され、充足状況が把握されます。内科系学術集会、JMECC（内科救急講習会（初年度は大阪大学医学部附属病院（以下「阪大病

院」という ）に開催協力依頼を行い。受諾を受けています。なお院内でディレクター、インストラクターの養成プランも立ち上げ、準備が整い次第、当院で開催をする予定）においても学習します。

(5) 自己学習

内科専門医制度「研修カリキュラム」にある疾患について、内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します。個人の経験に応じて適宜 DVD の視聴ができるよう図書室に設備を準備します。 また、日本内科学会雑誌の MCQ やセルフトレーニング問題を解き、内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。週に 1 回、指導医との Weekly summary discussion を行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

(6) Subspecialty 研修

後述する”各科重点コース”において、それぞれの専門医像に応じた研修を準備しています。Subspecialty 研修は 3 年間の内科研修期間の中で、履修状況にて 1 年を超える研修期間の延長も可能です。

3. 専門医の到達目標項目（2-(3)を参照）[整備基準：4、5、8～11]

(1) 3 年間の専攻医研修期間で、以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします。

① 70 に分類された各カテゴリーのうち、最低 56 のカテゴリーから 1 例を経験すること

② J-OSLER へ症例(定められた 200 件のうち、最低 160 例)を登録し、それを指導医が確認・評価すること

③ 登録された症例のうち､29 症例を病歴要約として内科専門医制度委員会へ提出し、査読委員から合格の判定をもらうこと

④ 技能・態度：内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得すること

※ なお、習得すべき疾患、技能、態度については多岐にわたるため、「研修手帳（疾患群項目表）」を参照してください。

(2) 専門知識について

内科専門医制度「研修カリキュラム」は総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急の 13 領域から構成されています。 箕面市立病院には 5 つの内科系診療科（血液内科、糖尿病・内分泌代謝内科、消化器内科、神経内科、循環器内科）があり、そのすべてが複数領域を担当しています。救急疾患は各診療科や ER を担当する総合診療科によって管理されており、箕面市立病院においては内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて、専門知識の習得を行います。 さら

に連携施設の阪大病院、市立豊中病院、大阪府済生会千里病院（以下「済生会千里病院」という ）、市立池田病院、市立吹田市民病院、国立病院機構大阪刀根山医療センター（以下「刀根山医療センター」という）、国立病院機構大阪医療センター（以下「大阪医療センター」という）、大阪けいさつ病院、市立伊丹病院、川崎病院、関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、川西市立総合医療センター、りんくう総合医療センター、宝塚病院、日本生命病院、大阪医科薬科大学病院を加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。 主な研修病院コースは、巻末の別紙１を参照してください。

4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得[整備基準：13]

(1) 朝カンファレンス・チーム回診：朝、患者申し送りを行い、チーム回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。

(2) 内科・消化器内科、総回診：受持患者について指導医に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。

(3) 症例検討会（毎週）：診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行います。

(4) 診療手技セミナー（毎週）：心臓エコー、腹部エコー、頚動脈エコー、下肢動静脈エコー、トレッドミル検査、上下腹部内視鏡検査などを用いて診療スキルの実践的なトレーニングを行います。

(5) ＣＰＣ：死亡・剖検例、難病･稀少症例についての病理診断を検討します。

(6) 関連診療科、医療スタッフとの合同カンファレンス（多職種カンファレンス）：関連診療科と合同で患者の治療方針について検討し、内科専門医のプロフェッショナリズムについても学びます。

(7) 抄読会・研究報告会（毎週）：受持症例等に関する論文概要を口頭説明し、意見交換を行います。 研究報告会では病院で行われている臨床研究や症例発表について討論を行い、学識を深め、国際性や医師の社会的責任について学びます。

(8) Weekly summary discussion：週に１回、指導医と行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

(9) 初期研修医に対する指導：病棟や外来、ER で医学生･初期研修医を指導します。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取り組みと位置づけています。

5. 学問的姿勢[整備基準：6、30]

患者から学ぶという姿勢を基本とし、科学的な根拠に基づいた診断、治療を行います（evidence based medicine の精神）。 最新の知識、技能を常にアップデートし、生涯を通して学び続ける習慣を作ります。また、日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため、症例報告あるいは研究発表を奨励します。論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くため、極めて重要なことであり、内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます。

6. 医師に必要な、倫理性、社会性[整備基準：7]

医師の日々の活動や役割に関わってくる基本となる能力、資質、態度を患者への診療を通して医療現場から学びます。

箕面市立病院において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、連携施設において、地域住民に密着し、病病連携や病診連携を依頼する立場を経験することにより、地域医療を実施します。 そのため複数施設での研修を行うことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を積みます。詳細は項目 8 および別紙 1 を参照してください。

基幹施設、連携施設を問わず、患者への診療を通して、医療現場から学ぶ姿勢の重要性を知ることができます。インフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し、接遇態度、患者への説明、予備知識の重要性などについて学習します。医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療、カルテ記載、病状説明など）を果たし、リーダーシップをとれる能力を獲得できるようにします。

医療安全と院内感染症対策を充分に理解するため、年に 2 回以上の医療安全講習会、感染対策講習会に出席します。 出席回数は常時登録され、年度末近くになると受講履歴が個人にフィードバックされ、受講を促されます。

7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方[整備基準：25、26、28、29]

上述のごとく、箕面市立病院（基幹施設）において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、他の地域医療や大学での医療を経験するため、複数施設での研修を行うことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を求めます。（詳細は項目 10 と 11 および別紙 1 を参照のこと）

すなわち箕面市立病院以外の地域医療や大学病院での医療を経験するため、全てのプログラムにおいて連携施設（阪大病院、市立豊中病院、済生会千里病院、市立池田病院、市立吹田市民病院、刀根山医療センター、大阪医療センター、大阪けいさつ病院、市立伊丹病院、川崎病院、関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、川西市立総合医療センター、りんくう総合医療センター、宝塚病院、日本生命病院、大阪医科薬科大学病院）での何か所かでの研修期間を設けています。連携病院へのローテーションを行うことで、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持にも貢献できます。 連携施設では基幹施

設で研修不十分となる領域を主として研修します。 入院症例だけでなく外来での経験を積み、施設内で開催されるセミナーへ参加します。

地域における指導の質および評価の正確さを担保するため、常にメールなどを通じて研修センター（臨床研修委員会が兼任）と連絡ができる環境を整備し、月に 1 回、指定日に基幹病院を訪れ、指導医と面談し、プログラムの進捗状況を報告します。

8. 年次毎の研修計画[整備基準：16、25、31]

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 2 つのコース、(1)内科基本コース、(2)各科重点コースを準備しています。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。 各科重点コースは①循環器内科コース、②消化器内科コース、③神経内科コース、④糖尿病・内分泌代謝内科コース、⑤血液内科コースがあります。

Subspecialty が未決定、または高度な総合内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択します。

(1) 内科基本コース（別紙 2 参照）

内科（Generality）専門医は勿論のこと、将来、内科指導医や高度な Generalist を目指す方も含まれます。 将来の Subspecialty が未定な場合に選択することもあり得ます。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、専攻医研修期間の 3 年間において内科領域を担当する全ての科（血液内科、糖尿病・内分泌代謝内科、消化器内科、神経内科、循環器内科)、連携施設の内科系の科をローテーションします。原則として 3 ヶ月を 1 単位として、研修します。

研修する連携施設の選定や時期は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。

別紙 1 に詳細を示します。

(2) 各科重点コース（別紙 2 参照）

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。研修開始直後の 4 ヶ月ないし 6 ヶ月間は希望する Subspecialty 領域にて初期トレーニングを行います。この期間、専攻医は将来希望する内科において理想的医師像とする指導医や上級医師から、内科医としての基本姿勢のみならず、目指す領域での知識、技術を学習することにより、内科専門医取得への Motivation を強化することができます。 その後、2 ヶ月間ないしは 3 ヶ月間を基本として他科をローテーションします。 研修 2 年目には、原則、連携施設における当該 Subspecialty 科以外の科において内科研修を継続し、充足していない症例を経験します。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望する Subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。 3 年目には箕面市立病院に戻り、Subspecialty 領域を中心に研修の継続 Subspecialty 科以外の科において内科研修を継続し、研修 2 年目同様、これまでに充足していない症例をさらに経験できるようにローテーションします。 別紙 2 に示すこのコースでは、最

初の 4 ヶ月間ないし 6 ヶ月間を Subspecialty の重点期間に当てていますので、3 年目の基幹病院での Subspecialty 重点期間が残る 6 ヶ月間ないし 8 ヶ月間となります。Subspecialty 重点コースには最長 1 年間という期間制約があることをご留意ください。

9. 専門医研修の評価[整備基準：17～22]

(1) 形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が Web 版の研修手帳に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。 また、技術・技能についての評価も行います。 年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。

研修委員会は指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し、必要に応じて指導医へ連絡を取り、評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います。

(2) 総括的評価

専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29 例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

この修了後に実施される内科専門医試験（毎年夏～秋頃実施）に合格して、内科専門医の資格を取得します。

(3) 研修態度の評価

指導医や上級医のみでなく、メディカルスタッフ（看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、臨床工学技士、理学療法士、管理栄養士など）から接点の多い職員 5 名程度を指名し、毎年 9 月と翌年 3 月に評価します。 評価法については別途定めるものとします。

(4) 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めるものとします。

10. 専門研修プログラム管理委員会[整備基準：35～39] （別紙 4 参照）

(1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を箕面市立病院に設置し、その委員長と各内科系から 1 名ないし 2 名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。 またその委員長はプログラム管理委員を兼務します。

(2) 専攻医外来対策委員会

外来トレーニングとしてふさわしい症例（主に初診）を経験するための専攻医外来対策委員会は研修委員会が兼任し、外来症例割当システムを構築します。未経験疾患患者の外来予定が指導医から連絡があれば、スケジュール調整の上、外来にて診療します。 専攻医は外来担当医の指導の下、当該症例の外来主治医となり、一定期間外来診療を担当し、研修を進めます。

11. 専攻医の就業環境（労務管理）[整備基準：40]

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。

労働基準法を順守し、専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。 特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は産業医によるカウンセリングを行います。 専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。 連携施設にて研修中は連携施設の就業環境に従うものとしますが、プログラム管理者は連携施設の就業環境に関して必ず、連携施設の委員長と話し合いを行い、適宜、調整を行うものとします。

なお本プログラムでは基幹施設、連携施設間での話し合いの結果、基幹施設、連携施設の所属においては、それぞれの就業規則と給与規則に沿うものとしています。

12. 専門研修プログラムの改善方法 [整備基準：49～51]

3 ヶ月毎に研修プログラム管理委員会を箕面市立病院にて開催し、プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価し、問題点を明らかにします。 また、各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます。 また、研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に、プログラム管理委員会は毎年、次年度のプログラム全体を見直すこととします。

専門医機構によるサイトビジット（ピアレビュー）に対しては研修管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け、プログラムの改善につなげます。

13.　修了判定[整備基準：21、53]

J-OSLER に以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います。

① 修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し、登録しなければなりません
② 所定の受理された 29 編の病歴要約
③ 所定の 2 編の学会発表または論文発表
④ JMECC 受講
⑤ プログラムで定める講習会受講
⑥ 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価の結果に基づき、医師としての適性に問題がないこと

14. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと[整備基準：21、22]

専攻医は様式を専門医認定申請年の 1 月末までにプログラム管理委員会に送付してください。プログラム管理委員会は 3 月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。その後、専攻医は日本専門医機構内科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行ってください。

15. 研修プログラムの施設群[整備基準：23～27]

箕面市立病院が基幹施設となり、阪大病院、市立豊中病院、済生会千里病院、市立池田病院、市立吹田市民病院、刀根山医療センター、大阪医療センター、大阪けいさつ病院、市立伊丹病院、川崎病院、関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、川西市立総合医療センター、りんくう総合医療センター、宝塚病院、日本生命病院、大阪医科薬科大学病院などを加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。（別紙 3 参照）

16. 専攻医の受入数

(1) 箕面市立病院における専攻医の上限（学年分）は 3 名です。
(2) 箕面市立病院に卒後 3 年目より後期研修を開始された専攻医は過去 3 年間併せて 6 名で 1 学年 2 名の実績があります。
(3) 剖検体数は 2025 年度 2 体、2024 年度 0 体、2023 年度 2 体、2022 年度 2 体、2021 年度 3 体、2020 年度 6 体、2019 年度 12 体、2018 年度 12 体、2017 年度 8 体です。
(4) 経験すべき症例数の充足について

＜表 1.箕面市立病院の診療科別実績＞

2025 年度実績	入院患者実数 （人/年）	外来延患者数 （延人数/年）
内科	65	1,813
消化器内科	1,199	16,047
循環器内科	197	4,660
血液内科	151	2,897
糖尿病・内分泌代謝内科	578	9,478
神経内科	275	5,166
総計	2,465	40,061

＜内科系疾患別入院患者実績（按分前実数）＞

2025 年実績	入院患者実数 （人/年）
総合内科Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ	68
消化器	927
循環器	126
内分泌	131
代謝	37
腎臓	148
呼吸器	479
血液	139
神経	156
アレルギー	15
膠原病	10
感染症	136
救急	56
総計	2,428

※上記表の入院患者について DPC 病名を基本とした各診療科における疾患群別の入院患者数と外来患者疾患を分析したところ、全 70 疾患群のうち、66 において充足可能でした。 従って原則、箕面市立病院にて 56 疾患群の修了条件を満たすことができます。

(5) 専攻医 2 年目ないし 3 年目に研修する連携施設には、大学病院 1 施設、高次機能・専門病院 1 施設（大阪刀根山医療センター：神経内科，呼吸器内科）、その他地域基幹病院があり、専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です。このような箕面市立病院以外の病院にて違った観点での研修も可能です。

17. Subspecialty 領域

内科専攻医になる時点で将来目指す Subspecialty 領域が決定していれば、各科重点コースを選択することになります。基本コースを選択していても、条件を満たせば各科重点コースに移行することも可能です。内科専門医研修修了後、各領域の専門医（例えば内分泌代謝科専門医、消化器病専門医、神経内科専門医、循環器専門医、血液専門医）をめざします。

18. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件[整備基準：33]

(1) 出産、育児によって連続して研修を休止できる期間を 6 ヶ月とし、研修期間内の調整で不足分を補うこととします。6 ヶ月以上の休止の場合は、未修了とみなし、不足分を予定修了日以降に補うこととします。 また、疾病による場合も同じ扱いとします。
(2) 研修中に居住地の移動、その他の事情により、研修開始施設での研修続行が困難になった場合は、移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。 その際、移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを適用します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。

19. 専門研修指導医[整備基準：36]

(1) 必須要件
① 内科専門医を取得していること
② 専門医取得後に臨床研究論文（症例報告含む）を発表する（「first author」もしくは「corresponding author」であること）、もしくは学位を有していること
③ 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること
④ 内科医師として十分な診療経験を有すること
(2) 選択とされる要件（下記の①、②いずれかを満たすこと）
① CPC、CC、学術集会（医師会含む）などへ主導的立場として関与・参加すること
② 日本内科学会での教育活動（病歴要約の査読、JMECC のインストラクターなど）
※ 但し、当初は指導医の数も多く見込めないことから、すでに「総合内科専門医」を取得している方々は、申請時に指導実績や診療実績が十分であれば、内科指導医と認めます。 また、現行の日本内科学会の定める指導医については、これまでの指導実績から、移行期間（2027 年度までコロナ禍の期間を配慮）においてのみ指導医と認めます。

20. 専門研修実績記録システム、マニュアル等[整備基準：41～48]

専門研修は項目Ⅱの専攻医研修マニュアルにもとづいて行われます。専攻医は J-OSLER に研修実績を登録し、指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます。 総括的評価は内科専門医制度「研修カリキュラム」に則り、少なくとも年 1 回行

います。

21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）[整備基準：51]

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります。サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます。 その評価はプログラム管理委員会に伝えられ、必要な場合は研修プログラムの改良を行います。

22. 専攻医の採用と修了[整備基準：52、53]

(1) 採用方法

プログラムへの応募者は、事務部経営人事室宛に所定の形式の『箕面市立病院内科後期研修医申込書』および履歴書を提出してください。

申込書は[1]箕面市立病院のホームページ(https://minoh-hp.jp/)よりダウンロード、[2]電話で問い合わせ(代表：072-728-2001)、[3]e-mail で問い合わせ（ホームページの採用情報ページ内にあり）のいずれの方法でも入手可能です。

(2) 研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の 4 月 1 日までに以下の専攻医氏名報告書を、箕面市立病院内科専門医プログラム管理委員会(minoh-hpkensyu@kyowakai.com)へ提出および、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します。

① 専攻医の氏名と医籍登録番号、内科医学会会員番号、専攻医の卒業年度、専攻医の研修開始年度
② 専攻医の履歴書
③ 専攻医の初期研修修了証

(3) 研修の修了

全研修プログラム終了後、プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて審査し、研修修了の可否を判定します。

審査は書類の点検と面接試験からなります。

点検の対象となる書類は以下の通りです。

① 専門研修実績記録
② 「経験目標」で定める項目についての記録
③ 「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録
④ 指導医による「形成的評価表」

面接試験は書類点検で問題にあった事項について行われます。

以上の審査により、内科専門医として適格と判定された場合は、研修修了となり、修了証が発行されます。

【別紙１】箕面市立病院内科専門医研修施設群箕面市立病院内科専門医プログラム

〔研修期間：3 年間（原則，基幹施設 2 年間+連携施設 1 年間)〕

1．各内科専門研修施設の概要（2026 年度，内科剖検数は 2025 年度）

病院名	全病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
箕面市立病院	317	150	5	9	10	2
市立豊中病院	549	213	8	29	23	4
済生会千里病院	327	109	7	3	14	4
市立池田病院	364	194	8	23	21	8
市立吹田市民病院	431	185	8	24	20	4
阪大病院	1,086	271	10	82	145	8
刀根山医療センター	410	346	5	14	17	6
大阪医療センター	605	269	9	42	29	10
大阪けいさつ病院	650	242	8	20	29	6
市立伊丹病院	414	176	10	33	22	7
川崎病院	278	170	6	16	18	3
関西労災病院	642	223	5	21	20	7
兵庫県立西宮総合医療センター	502	218	11	52	29	0
川西市立総合医療センター	405	119	8	10	6	9
りんくう総合医療センター	388	123	8	12	15	10
宝塚病院	131	－	5	0	1	0
日本生命病院	350	144	7	20	20	7
大阪医科薬科大学病院	850	302	9	47	57	13

2. 各内科専門研修施設での内科 13 領域の研修の可能性

病院名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
箕面市立病院	○	○	○	○	○	△	△	○	○	△	×	○	○
市立豊中病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
済生会千里病院	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○	△	○
市立池田病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
市立吹田市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
阪大病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
刀根山医療センター	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×
大阪医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
大阪けいさつ病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立伊丹病院	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○
川崎病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○
関西労災病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県立西宮総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川西市立総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○
りんくう総合医療センター	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○
宝塚病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	△	○	○
日本生命病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪医科薬科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※各研修施設での内科 13 領域　＜○研修できる△時に研修できる×ほとんど経験できない＞

【別紙 2】内科基本コース及び Subspecialty 重点コースの概要

〔内科基本コース（あくまで 1 例）〕

<table>
<tr><td>専攻医研修</td><td>4 月</td><td>5 月</td><td>6 月</td><td>7 月</td><td>8 月</td><td>9 月</td><td>10 月</td><td>11 月</td><td>12 月</td><td>1 月</td><td>2 月</td><td>3 月</td></tr>
<tr><td rowspan="3">1 年目
(基幹病院)</td><td colspan="3">循環器内科</td><td colspan="3">消化器内科</td><td colspan="3">糖尿病・内分泌代謝内科</td><td colspan="3">血液内科</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="11">ER 内科系当直、 4 単位/月</td></tr>
<tr><td colspan="12">1 年目に JMECC を受講（プログラムの要件）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年目
(連携病院)</td><td colspan="12">再診外来</td></tr>
<tr><td colspan="12">1 年目で研修できなかった科目</td></tr>
<tr><td colspan="9"></td><td colspan="3">内科専門医取得のための病歴提出準備</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3 年目
(基幹病院)</td><td colspan="3">神経内科</td><td colspan="3">希望科</td><td colspan="3">希望科</td><td colspan="3">希望科</td></tr>
<tr><td colspan="6">初診再診外来</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td colspan="6">3 年目までに外来研修を修了できることを
明記</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td colspan="2">そのほかプログラム要件</td><td colspan="10">安全管理セミナー、感染セミナー、CPC 受講</td></tr>
</table>

※モデルプログラムとして紹介するこのコースでは連携施設での研修を 2 年目としていますが、連携施設での研修を 3 年目に行うプログラムもあります。(最終的に修了要件を満たすことが重要です)

〔Subspecialty 重点コース〕

1．循環器内科重点コース

(1) 概要

■研修スケジュール

循環器内科領域を重点的に研修するコースです。研修開始直後の 4 ヶ月ないし 6 ヶ月間は循環器内科にて初期トレーニングを行います。その後、2 ヶ月間を基本として他科をローテーションします。

研修 2 年目には、連携施設(市立豊中病院、済生会千里病院、市立池田病院、市立吹田市民病院、大阪医療センター、大阪けいさつ病院、市立伊丹病院、川崎病院、関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、川西市立総合医療センター、りんくう総合医療センター、日本生命病院のいずれか)において充足していない症例を経験します。研修 3 年目には、再び箕面市立病院において 2 ヶ月間を基本として他科をローテーションし、最後の 6 ヶ月ないし 8 ヶ月間を循環器内科で研修します。 さらに充足していない症例がある場合や希望に応じて短期間、阪大病院にて循環器に特化した研修を受けることも可能です。 なお 3 年間の研修期間において循環器内科での研修は計 12 ヶ月間までとなります。

■研修内容

1.心不全の診断と治療

今後急速に増加が予測される心不全症例の診断及び治療をとおして循環器内科医としての基本手技である心エコーによる心機能の評価能力を身に付けてもらいます。

2.虚血性心疾患の診断と治療

運動負荷心電図や薬剤負荷心筋シンチなどの負荷検査や心臓 CT(64 列)で虚血性心疾患の診断力を身に付けてもらい、冠動脈造影検査をしてもらい、症例によっては冠動脈形成術の術者もしてもらいます。 当院は平成 29 年 10 月より冠動脈造影検査及び冠動脈形成術を再開しましたが、地域の特性もあり、緊急症例は少なく、予定症例がメインで今のところ症例数も多くはないですが、その分各症例に時間を割くことができるため、専攻医の先生にも積極的に参加できる機会があります。また現在は 24 時間対応の循環器救急体制は行えておりませんが、勤務時間内の緊急冠動脈造影検査及び冠動脈形成術には対応しており、将来的には 24 時間対応できるようにしていきたいと思います。

3.不整脈疾患の診断と治療

当院では不整脈の侵襲的治療は恒久的ペースメーカー植込術のみしており、カテーテルアブレーション、植込型除細動器、両室ペーシングなどの治療はしていないため、手技として限られますが、診断及び治療方針については十分に学ぶことはできると思います。将来的には罹病期間が比較的短期間の発作性及び持続性心房細動に対してはカテーテルアブレーションによる治療も行っていきたいと思います。

4.重症心疾患症例の管理

正式な集中治療室（ICU）の施設認可は受けていませんが、設備的には ICU に相当する病棟があり、ハイケアユニット（HCU）4 床と ICU2 床の計 6 床を配置しています。人工呼吸器、非侵襲的人工呼吸器（NPPV)、持続的血液透析濾過器（CHDF)、一般血液透析装置（HD）などが必要な重症循環器疾患の集中治療管理を身に付けることができます。

5.その他

平成 30 年 1 月より特発性拡張型心筋症、肥大型心筋症などの心筋症症例の心臓 MRI 検査を開始しております。これは阪大の心筋症などによる心機能低下症例や心移植後症例の検査目的に開始しておりますが、当院でも心筋症などの低心機能症例の診断には積極的に行っていきたいと思います。

上記のとおり冠動脈造影検査、冠動脈形成術、カテーテルアブレーションなどのカテーテル検査及び治療に特化した病院ではありませんが、循環器専門医をめざす専攻医にとっては、バランスよく循環器疾患全般の診断及び治療の一般循環器内科医が身に付けるべきことを学ぶことにふさわしい病院と言えると思います。また専攻医の希望や将来目指すべき医師像に応じて研修メニュー及びスケジュールを考えたいと思います。各連携施設の概要は別紙 3 に示しています。

(2) 循環器内科研修の週間スケジュール　〔(ピンク部分）は特に教育的な行事です〕

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td colspan="7">モーニングセミナー（年約 10 回)、ER 勉強会（年約 10 回）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td>ICU カンファ</td><td>ICU カンファ</td><td>ICU カンファ</td><td>ICU カンファ</td><td>ICU カンファ</td><td rowspan="4">週末
日当直
(1/月）</td></tr>
<tr><td>内科系初診外来</td><td>病棟、心エコー</td><td>カテーテル検査・治療</td><td>ER 担当､初期研修医指導</td><td>心筋シンチ、病棟カンファ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">午後</td><td rowspan="2">カテーテル検査・治療</td><td></td><td rowspan="2">病棟、心エコー</td><td>ホルター解析、心臓 CT</td><td rowspan="2">病棟、心エコー、研究時間</td></tr>
<tr><td>心臓 CT</td><td>循環器カンファレンス</td></tr>
<tr><td>内科カンファ</td><td>心臓 CT 読影</td><td>カテカンファ､症例提示、抄読会</td><td>心臓 CT 読影</td><td>心肺シンチ読影</td></tr>
<tr><td colspan="7">当直（2～3 回/月）</td></tr>
</table>

※ 上記予定は概ねの予定です。各人の希望に合わせて週間スケジュールは調整可能です。

※ 1 年目から ER 当直業務(2～3 回/月）があります． 2 年目からは外来診療(1 回/週午前または午後)があります.

※ 研究時間は症例発表や当施設の心不全、虚血、不整脈のデータをまとめるなど循環

器的研究に使って下さい。

(3) 循環器内科重点コースローテーション表

<table>
<tr><td rowspan="2">1年目</td><td colspan="2">4月</td><td colspan="2">5月</td><td colspan="2">6月</td><td colspan="2">7月</td><td colspan="2">8月</td><td colspan="2">9月</td><td colspan="2">10月</td><td colspan="2">11月</td><td colspan="2">12月</td><td colspan="2">1月</td><td colspan="2">2月</td><td colspan="2">3月</td></tr>
<tr><td colspan="12">循環器（例）</td><td colspan="4">消化器内科(例)</td><td colspan="4">糖尿病・内分泌代謝(例)</td><td colspan="4">神経内科(例)</td></tr>
<tr><td colspan="20">日勤時間内緊急ペースメーカー挿入・カテーテル治療、心臓CT当番での研修あり</td></tr>
<tr><td colspan="20">ER当直業務(2～3回/月)、JMECC受講</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2年目</td><td colspan="20">連携施設</td></tr>
<tr><td colspan="20">充足していない領域を中心にローテーションする．循環器内科研修を2ヶ月選択可能</td></tr>
<tr><td colspan="16"></td><td colspan="4">内科専門医取得の病歴提出準備</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3年目</td><td colspan="6">血液(例)</td><td colspan="6">希望科(例)</td><td colspan="6">希望科(例)</td><td colspan="8">循環器(連携施設で2ヶ月循環器内科研修をした時は4ヶ月、2ヶ月は他科研修)</td></tr>
<tr><td colspan="20">日勤時間内緊急ペースメーカー挿入・カテーテル治療、心臓CT当番での研修あり</td></tr>
<tr><td colspan="20">ER当直業務(2～3回/月)</td></tr>
<tr><td>その他のプログラム要件</td><td colspan="20">安全管理セミナー、感染セミナーの年2回の受講、CPC受講</td></tr>
</table>

※ 1年目箕面市立病院⇒2年目連携病院(市立豊中病院、済生会千里病院、市立池田病院、市立吹田市民病院、大阪医療センター、市立伊丹病院、川崎病院、関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、川西市立総合医療センター、りんくう総合医療センター、日本生命病院のいずれか)⇒3年目箕面市立病院の場合

※ 他領域の研修の進捗状況により、循環器内科の研修期間を増やすことも可能です。

2. 消化器内科重点コース

(1) 概要

消化器内科領域を重点的に研修するコースです。研修開始直後の6ヶ月間は消化器内科にて初期トレーニングを行います。 その後、2ヶ月間を基本として他科をローテーションします。 研修2年目には、連携施設(市立豊中病院、済生会千里病院、市立池田病院、市立吹田市民病院、大阪医療センター、大阪けいさつ病院、市立伊丹病院、川崎病院、関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、川西市立総合医療センター、りんくう総合医療センター、日本生命病院のいずれか)において充足していない症例を経験します。研修3年目には、再び箕面市立病院において2ヶ月間を基本として他科をローテーションし、最後の4～6ヶ月間を消化器内科で研修します。3年間の研修期間において消化器内科での研修は 12 ヶ月までとなりますので、箕面市立病院での消化器内科研修を 10 ヶ月間行い、連携施設での消化器内科研修を 2 ヶ月間選択す

ることも可能です。

箕面市立病院で研修中は、時間外の緊急消化管内視鏡検査や緊急胆嚢ドレナージ等の IVR 治療を当番制で上級医と担当し、内視鏡や超音波検査のより高度な技術の習得をめざします。

(2) 消化器内科研修の週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	上部消化管 内視鏡 造影超音波検査	上部消化管 内視鏡 腹部超音波検査 肝動脈塞栓療法	上部消化管 内視鏡 腹部超音波検査	上部消化管 内視鏡 腹部超音波 検査 肝動脈塞栓療法	上部消化管 内視鏡 造影超音波 検査
午後	内視鏡治療 造影超音波検査 内科カンファレンス	内視鏡治療 消化器カンファレンス	大腸内視鏡 大腸合同カンファレンス　(内科外科) 肝臓(内科外科・放射線科) 合同カンファレンス	内視鏡治療	大腸内視鏡 ラジオ波 焼灼術 肝生検

※ 時間外の緊急消化管内視鏡検査や緊急胆嚢ドレナージ等の IVR 治療を当番制で行います。

※ 1 年目から ER 当直業務(1 年目～ 2～3 回/月)があります。

※ 2 年目からは外来診療(1 回/週午前または午後)があります。

(3) 消化器内科重点コースローテーション表

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">4 月</th><th colspan="2">5 月</th><th colspan="2">6 月</th><th colspan="2">7 月</th><th colspan="2">8 月</th><th colspan="2">9 月</th><th colspan="2">10 月</th><th colspan="2">11 月</th><th colspan="2">12 月</th><th colspan="2">1 月</th><th colspan="2">2 月</th><th colspan="2">3 月</th></tr>
<tr><td rowspan="3">1 年目</td><td colspan="12">消化器内科</td><td colspan="4">循環器(例)</td><td colspan="4">血液(例)</td><td colspan="4">糖尿病・内分泌代謝(例)</td></tr>
<tr><td colspan="24">時間外内視鏡・IVR 当番での研修あり</td></tr>
<tr><td colspan="24">ER 当直業務(2～3 回/月)、JMECC 受講</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2 年目</td><td colspan="24">連携施設</td></tr>
<tr><td colspan="24">充足していない領域を中心にローテーションする．消化器内科研修を 2 ヶ月選択可能</td></tr>
<tr><td colspan="20"></td><td colspan="4">内科専門医取得の病歴提出準備</td></tr>
<tr><td>3 年目</td><td colspan="4">神経内科(例)</td><td colspan="4">希望科(例)</td><td colspan="4">希望科(例)</td><td colspan="12">消化器内科(連携施設で 2 ヶ月消化器内科研修をした時は 4 ヶ月、2 ヶ月は他科研修)</td></tr>
</table>

	時間外内視鏡・IVR 当番での研修あり
	ER 当直業務(2～3 回/月)

※ 1 年目箕面市立病院⇒2 年目連携病院(市立豊中病院、済生会千里病院、市立池田病院、市立吹田市民病院、大阪医療センター、市立伊丹病院、川崎病院、関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、川西市立総合医療センター、りんくう総合医療センター、日本生命病院のいずれか)⇒3 年目箕面市立病院の場合

※ 他領域の研修の進捗状況により、消化器内科の研修期間を増やすことも可能です。

3. 神経内科重点コース

(1) 概要

神経内科領域を重点的に研修するコースです。研修開始後の 6 ヶ月間は神経内科にて初期トレーニングを行います。 その後、2 ヶ月間を基本として他科をローテーションします。

研修 2 年目には連携施設（市立豊中病院、市立池田病院、市立吹田市民病院、刀根山医療センター、大阪医療センター、大阪けいさつ病院、関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、日本生命病院のいずれか）において充足していない症例を経験します。研修 3 年目には、再び箕面市立病院にて 2 ヶ月間を基本として他科をローテーションし、最後の 4 ヶ月ないし 6 ヶ月間を神経内科で研修します。

3 年間の研修期間において神経内科での研修は 1 年、または 2 年が可能です。 箕面市立病院での神経内科研修、連携施設での神経内科研修を合計 2 年間選択することも可能です。内科専門研修と神経内科サブスペシャリティ研修を並行して行うコースも選択できます。

箕面市立病院での研修中は神経筋難病、脳血管障害、神経緊急疾患（脳炎、髄膜炎、痙攣、意識障害など)、てんかんなどの幅広い神経筋疾患の診察、検査、鑑別診断、治療などを習得するとともに、神経放射線・画像診断能力（CT、MRI、頚部血管エコー、脳血流 SPECT、ダットシンチ（DaTSCAN)、MIBG 交感神経シンチなど）の習得、神経生理学的検査（脳波、筋電図、誘発脳波検査など）の習得も行います。 また、筋生検、神経生検、遺伝子検査、病理解剖も積極的に行い、神経内科専門医習得につながる質の高い研修をめざします。

(2) 神経内科研修の週間スケジュール（例）

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 入院患者処置、検査	病棟回診 入院患者処置、検査 RI 検査（SPECT、DaTSCAN)	病棟回診 入院患者処置、検査	病棟回診 入院患者処置、検査	病棟回診 入院患者処置、検査 RI 検査

午後	病棟回診	予約外来診察 神経放射線読影会、 脳波読影、 勉強会	筋電図、 誘発脳波検査 神経内科カルテ回診 神経内科病棟総回診	ER 救急担当	ER 救急担当または病棟回診 神経内科病棟多職種カンファレンス

※ 毎週月曜日　午後からは内科系合同カンファレンスがあります。

※ ER 当直業務（1 年目から 2～3 回/週）があります。

※ 平日日勤 ER の神経疾患 First Call も担当します。

(3)神経内科重点コースローテーション表

神経内科 1 年研修コース例

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年目	神経内科						循環器(例)		血液(例)		糖尿病・内分泌代謝(例)	
	ER、外来での髄液検査実施、および神経放射線カンファレンス、勉強会あり. ICT 回診、NST 回診にも参加する.											
	ER 当直業務(2～3 回/月)											
2 年目	連携施設											
	充足していない領域を中心にローテーションする.神経内科研修を 2 ヶ月選択可能											
										内科専門医取得の病歴提出準備		
3 年目	消化器内科(例)		希望科(例)		希望科(例)		神経内科(連携施設で 2 ヶ月神経内科研修をした時は 4 ヶ月、2 ヶ月は他科研修)					
	ER、外来での髄液検査実施、および神経放射線カンファレンス、勉強会あり											
	ER 当直業務(2～3 回/月)											

※ 上記コースに加えて神経内科 2 年研修コースも選択できます。

神経内科 2 年研修コース例

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年目	神経内科											
	内科（循環器（例)、内分泌・代謝（例))											
	ER、外来での髄液検査実施、および神経放射線カンファレンス、勉強会あり. ICT 回診、NST 回診にも参加する.											
	ER 当直業務(2～3 回/月)											
2 年目	連携施設											
	充足していない領域を中心にローテーションする.											
										内科専門医取得の病歴提出準備		

3 年目	神経内科
	内科（循環器（例）、内分泌・代謝（例））
	ER、外来での髄液検査実施、および神経放射線カンファレンス、勉強会あり
	ER 当直業務(2～3 回/月)

※ 1 年目箕面市立病院⇒2 年目連携病院（市立豊中病院、市立池田病院、市立吹田市民病院、刀根山医療センター、大阪医療センター、大阪けいさつ病院、関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、日本生命病院のいずれか）⇒3 年目箕面市立病院の場合

4. 糖尿病・内分泌代謝内科重点コース

(1) 概要

糖尿病・内分泌代謝内科領域を重点的に研修するコースです。研修開始直後の 6 ヶ月間は糖尿病・内分泌代謝内科にて初期トレーニングを行います。 その後、2 ヶ月間を基本として他科をローテーションします。

研修 2 年目には、連携施設(市立豊中病院、市立池田病院、市立吹田市民病院、済生会千里病院、大阪医療センター、大阪けいさつ病院、市立伊丹病院、川崎病院、関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、川西市立総合医療センター、りんくう総合医療センター、日本生命病院のいずれか)において充足していない症例を経験します。研修 3 年目には、再び箕面市立病院において 2 ヶ月間を基本として他科をローテーションし、最後の 4 ヶ月ないし 6 ヶ月間を糖尿病・内分泌代謝内科で研修します。

研修 1 年目と 2 年目を箕面市立病院で行い、研修 3 年目を連携施設(阪大病院等)で行うことも可能です。

3 年間の研修期間において糖尿病・内分泌代謝内科での研修は 12 ヶ月までとなりますので、箕面市立病院での糖尿病・内分泌代謝内科研修を 10 ヶ月間行い、連携施設での糖尿病・内分泌代謝内科研修を 2 ヶ月間選択することも可能です。

箕面市立病院で研修中は、糖尿病を始めとする内分泌・代謝疾患に対する理解を深め、患者への糖尿病講義も担当し、また甲状腺超音波検査の技術習得や、時間外の糖尿病急性合併症（糖尿病性ケトアシドーシスや高血糖高浸透圧症候群）等の治療・早朝の内分泌学的負荷試験も当番制で上級医と担当し、この領域の専門的対応の包括的な習得を目指します。

(2) 糖尿病・内分泌代謝内科研修の週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	ICUカンファレンス 患者情報確認 病棟	ICUカンファレンス 患者情報確認 病棟	ICUカンファレンス 患者情報確認 病棟	ICUカンファレンス 患者情報確認 病棟	ICUカンファレンス 患者情報確認 病棟

		糖尿病サロン			
午後	病棟 内科カンファレンス	病棟 甲状腺超音波検査	病棟 抄読会 CPC月1回	甲状腺超音波検査 Weekly Discussion 糖尿病センター回診	病棟

※ 時間外の糖尿病急性合併症等の救急対応を当番制で行います。

※ 1年目から当直業務(1年目～ 2～3回/月)があります。

※ 2年目からは外来診療(1回/週午前または午後)があります。

(3) 糖尿病・内分泌代謝内科重点コースローテーション表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	糖尿病・内分泌代謝						消化器(例)		神経内科(例)		循環器(例)	
	時間外の糖尿病急性合併症等の救急対応あり											
	当直業務(2～3回/月)、JMECC受講											
2年目	連携施設											
	充足していない領域を中心にローテーションする．糖尿病・内分泌代謝研修を2ヶ月選択可能											
										内科専門医取得の病歴提出準備		
3年目	血液内科(例)		希望科(例)		希望科(例)		糖尿病・内分泌代謝(連携施設で2ヶ月糖尿病・内分泌代謝をした時は4ヶ月、2ヶ月は他科研修)					
	時間外の糖尿病急性合併症等の救急対応あり											
	外来診療(1回/週午前または午後)、当直業務(2～3回/月)											

※ 1年目箕面市立病院⇒2年目連携病院(市立豊中病院、市立池田病院、市立吹田市民病院、済生会千里病院、大阪医療センター、大阪けいさつ病院、市立伊丹病院、川崎病院、関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、川西市立総合医療センター、りんくう総合医療センター、日本生命病院のいずれか)⇒3年目箕面市立病院の場合

5. 血液内科重点コース

(1) 概要

血液内科領域を重点的に研修するコースです。研修開始直後の6ヶ月間は血液内科にて初期トレーニングを行います。その後、2ヶ月間を基本として他科をローテーシ

ョンします。

研修 2 年目には、連携施設(市立豊中病院、市立池田病院、市立吹田市民病院、大阪医療センター、大阪けいさつ病院、市立伊丹病院、川崎病院、関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、りんくう総合医療センター、日本生命病院のいずれか)において充足していない症例を経験します。 研修 3 年目には、再び箕面市立病院において 2 ヶ月間を基本として他科をローテーションし、最後の 6 ヶ月間を血液内科で研修します。

3 年間の研修期間において血液内科での研修は 12 ヶ月までとなりますので、箕面市立病院での血液内科研修を 10 ヶ月間行い、連携施設での血液内科研修を 2 ヶ月間選択することも可能です。

箕面市立病院で研修中は、血液腫瘍に対する化学療法を中心に、血液学に対する専門的知識や技術の習得にとどまらず、感染症医、腫瘍内科医としてもより高度な技術の習得を目指します。

(2) 血液内科研修の週間スケジュール（例）

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 病棟カンファレンス 勉強会(血液)	病棟回診 勉強会（化学療法・緩和）	病棟回診 外来化学療法	ER （救急・総合内科）	病棟回診
午後	病棟 処置・検査 化学療法 内科カンファレンス	病棟 処置・検査 化学療法 血液標本検討	病棟 処置・検査 化学療法 勉強会（感染症）	病棟 処置・検査 化学療法 血液内科カンファレンス	病棟 処置・検査 化学療法

※ 1 年目から ER 当直業務(1 年目～ 2～3 回/月)があります。

※ 2 年目からは外来診療(1 回/週午前または午後)があります。

(3) 血液内科重点コースローテーション表

<table>
<tr><td></td><td>4 月</td><td>5 月</td><td>6 月</td><td>7 月</td><td>8 月</td><td>9 月</td><td>10 月</td><td>11 月</td><td>12 月</td><td>1 月</td><td>2 月</td><td>3 月</td></tr>
<tr><td rowspan="3">1 年目</td><td colspan="6">血液</td><td colspan="2">循環器(例)</td><td colspan="2">消化器内科(例)</td><td colspan="2">糖尿病・内分泌代謝(例)</td></tr>
<tr><td colspan="12">ICT とともに感染症診療　腫瘍内科としての研修も平行して行う</td></tr>
<tr><td colspan="12">ER 当直業務(2～3 回/月)、JMECC 受講</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2 年目</td><td colspan="12">連携施設</td></tr>
<tr><td colspan="12">充足していない領域を中心にローテーションする．血液内科を 2 ヶ月選択可能</td></tr>
<tr><td colspan="10"></td><td colspan="2">内科専門医取得の病歴提出準備</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3 年目</td><td colspan="2">神経内科(例)</td><td colspan="2">希望科(例)</td><td colspan="2">希望科(例)</td><td colspan="6">血液(連携施設で 2 ヶ月血液研修をした時は 4 ヶ月、2 ヶ月は他科研修)</td></tr>
<tr><td colspan="12">ICT とともに感染症診療・腫瘍内科としての研修も平行して行う</td></tr>
<tr><td colspan="12">ER 当直業務(2～3 回/月)</td></tr>
</table>

※ 1 年目箕面市立病院⇒2 年目連携病院(市立豊中病院、市立池田病院、市立吹田市民病院、大阪医療センター、大阪けいさつ病院、市立伊丹病院、川崎病院、関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、りんくう総合医療センター、日本生命病院のいずれか)⇒3 年目箕面市立病院の場合

【別紙３】専門研修基幹施設,各連携施設概要

１．専門研修基幹施設

（1）箕面市立病院（2026 年 4 月 1 日現在，患者数は 2025 年度）

認定基準 [整備基準 24] 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･常勤職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（事務部経営人事室）があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2)専門研修プログラムの環境	指導医は 9 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設及び連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理、医療安全、感染対策講習会等を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回［当院 1 回、他院 4 回］）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（箕面市病診連携懇談会、研修会、箕面市立病院登録医意見会研修会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 12 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ･専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 2 体、2024 年度実績 0 体、2023 年度実績 2 体、2022 年度実績 2 体、2021 年度実績 3 体、2020 年度実績 6 体、2019 年度実績 12 体、2018 年度実績 12 体、2017 年度実績 8 体）を行っています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	･倫理委員会を設置し、定期的に開催しています（2025 年度実績 4 回）。 ･治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	森谷　真之 【内科専攻医へのメッセージ】

	箕面市立病院は、豊能医療圏の中心的な急性期病院のひとつであり、大阪大学医学部附属病院および、豊能医療圏および阪神地域の医療圏の病院などと連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、日本消化器病学会消化器病専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 3 名、日本肥満学会肥満症専門医 1 名、日本専門医機構認定内科専門医 4 名
外来、入院患者数（内科系）	外来延患者数 40,061 名/年（2025 年度） 入院延患者数名 34,015/年（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術、技能	技術、技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術、技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働認定施設 など

２．専門研修連携施設　（箕面市立病院内科専門医プログラム）

（1）大阪大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ･非常勤医員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する施設（キャンパスライフ健康支援・相談センター）が、大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）にあります。 ･ハランスメント対策委員会が院内総務課に設置されています。また、ハラスメント相談室が大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）に設定されており、病院職員の一人が相談員として従事しており、院内職員も利用可能です。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･病院と同敷地内に大阪大学学内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2） 専門研修プログラムの環境	・指導医は 82 名在籍しています(2025 年度)。 ・プログラム管理委員会および研修委員会を設置しています。 ･プログラム管理委員会は、基幹施設および連携施設の研修委員会と連携をはかり、専攻医の研修を管理します。 ･医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC（内科系） を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査に対して、研修委員会が真摯に対応します。
認定基準 【整備基準 23】 3） 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できる症例を診療しています。専門研修に必要な剖検を適切に行います。
認定基準 【整備基準 23】 4） 学術活動の環境	･臨床研究が定常的に行われており、臨床研究のための講習会も定期的に開催されています。 ・大阪大学臨床研究倫理委員会（認定番号 CRB5180007）、介入研究等・観察研究等倫理審査委員会が設置されています。

	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	プログラム統括責任者　山本浩一　副プログラム統括責任者　保仙直毅 研修委員会委員長　山本浩一
指導医数（常勤）	(2025 年度) 日本内科学会指導医 82 名 総合内科専門医 145 名 内科学会指導医のうち、以下の専門医が定常的に在籍しています。 日本消化器病学会消化器専門医、日本肝臓病学会専門医 日本循環器学会循環器専門医、日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学会専門医、日本腎臓病学会専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医 日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会専門医（内科） 日本リウマチ学会専門医、日本老年医学会老年科専門医、日本感染症学会専門医 JMECC ディレクター　0 名、JMECC インストラクター　8 名
外来・入院 患者数（内科系）	2025 年度実績　外来患者延べ数　196,432 名、退院患者数　6,680 名（病院許可病床数　一般　1034 床、精神　52 床） 2025 年度　入院患者延べ数　99,135 名（循環器内科　17,237 名、腎臓内科　6,325 名、消化器内科　18,867 名、糖尿病・内分泌・代謝内科 6,285 名、呼吸器内科　11,910 名、免疫内科　8,239 名、血液・腫瘍内科　13,614 名、老年・高血圧内科　4,440 名、脳神経内科　11,277 名、感染症内科　941 名）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある内科 11 領域、50 疾患群の症例を経験することができます。このほか、ICU と連携して ICU のローテーション研修を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、豊能医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設

	日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本老年医学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本感染症学会認定研修施設

(2) 市立豊中病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi 環境があります. ·豊中市非常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ·ハラスメント委員会が病院内に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 29 名在籍しています（2026 年 4 月 1 日現在）. ·内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修センターを設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（北大阪内科研究会、北摂血液疾患懇話会、北摂内視鏡研究会、大阪腎疾患研究会、大阪大学内分泌・代謝研究会、豊中糖尿病研究会、豊中胃内視鏡勉強会、はーと会など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ·専門研修に必要な剖検（2020 年度 6 体、2021 年度 9 体、2022 年度 8 体、2023 年度 7 体、2024 年度 8 体、2025 年度 4 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，臨床研究センターを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験審査委員会を設置し，定期的に治験審査委員会を開催しています.

	·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています（2025 年度実績 8 演題）。
指導責任者	小杉　智（内科主任部長、血液内科主任部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　市立豊中病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設で内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 　主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤内科医） 2025 年 4 月 1 日現在	日本内科学会指導医 28 名，日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本専門医機構認定（新）内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名，日本肝臓病学会専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本糖尿病学会専門医 3 名， 日本内分泌学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 4 名，日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本アレルギー学会専門医 2 名、日本臨床腫瘍学会専門医 2 名、日本内視鏡学会専門医 5 名
外来・入院患者数 （内科系）	外来延患者数　109,071 名/年（2025 年度） 入院件数　84,470 件/年（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設

	日本脳卒中学会研修教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設など

(3) 大阪府済生会千里病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（職員のメンタル管理の仕事を中心とする公認心理士 3 名が配属）があります. ·ハラスメント委員会が院内に設置されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，女医休憩室，女医当直室、更衣室，シャワー室が整備されています. ·管理棟内に職員家族用の院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 27 名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設の研修委員会との連携を図り専攻医の研修を管理します. ·医療倫理研修会・医療安全研修会・感染対策研修会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（千里診療連携セミナー）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に専攻医研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 8 分野（総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、膠原病、救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. また、70 疾患群のうち 56 疾患群について研修できます. ·専門研修に必要な剖検（2025 年度 4 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室を整備しています.医学中央雑誌の web 版(医中誌 web)、「メディカルオンライン」が利用できます。英語の文献は近畿病院図書室協議会の KITOcat のシステムを利用して文献を取り寄せることが可能です。その他、英語で「UpToDate」が、日本語で「今日の臨床サポート」が使用できます。 ·外部委員も参加する倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に継続して学会発表をしています.
指導責任者	プログラム統括責任者：西尾　まゆ 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とも連携して内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある,地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2 名，日本内科学会総合内科指導医 2 名,日本消化器病学会指導医 1 名,日本消化器内視鏡学会指導医 1 名,日本消化管学会指導医 1 名，日本超音波医学会指導医 3 名,日本脈管学会指導医 3 名,日本高血圧学会指導医 1 名，日本リウマチ学会指導医 3 名，日本糖尿病学会指導医 2 名，日本救急医学会救急科指導医 5 名，日本呼吸器学

	会指導医 3 名
外来・入院患者数	新外来患者数 1900 名（1 ヶ月平均）（2025 年度） 新入院患者数 757 名　（1 ヶ月平均　(2025 年度)
経験できる疾患群	当院において研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域にある 56 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本消化器病学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本肝臓学会特別連携施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脈管学会認定研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設

(4) 国立病院機構大阪刀根山医療センター

認定基準 [整備基準 24] 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署(窓口:管理課)があります。 ･ハラスメントに適切に対処する部署(窓口:管理課)があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です(定期利用のみ)。
認定基準 [整備基準 24] 2)専門研修プログラムの環境	指導医は 14 名在籍しています(2026 年 4 月現在) ･内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績 12 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催(2025 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス(病病、病診連携カンファレンス)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 2 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(呼吸器 脳神経)。 専門研修に必要な剖検(2025 年度 6 体)を行っています。
認定基準 [整備基準 24] 4)学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2025 年度実績 2 演題)をしています。
指導責任者	**松村 剛** (内科学会指導医/総合内科専門医) 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構大阪刀根山医療センターは、豊中市にある呼吸器疾患と神経疾患の専門病院であり、両領域の基幹施設です。基幹施設と連携して内科専門研修を行います。専攻医の研修目的に合わせたプログラムで、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数(常勤)	日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 13 名、 日本神経学会神経内科専門医 16 名
外来、入院 患者数(内科系)	外来患者 53,697 名(平均延数 4,475 名／月) 新入院患者 2,928 名(平均数 244／月) (2025 年度)

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 2 領域、15 疾患群の症例を経験することができます。（詳細はお問い合わせください）
経験できる技術。技能	技術。技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療。診療連携	急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、慢性疾患の診療を通して病診。病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設　など

（5）市立池田病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・医師臨床研修制度基幹型臨床研修病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境、Ｗｉ-Ｆｉ環境があります. ・池田市非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士担当）があります. ・ハラスメント対策委員会が池田市役所に整備されています. ・女性専攻医向けの安全な、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています. ・ 敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	日本内科学会指導医は 23 名在籍しています。（2026 年 4 月現在） ･内科専門研修プログラム管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績計 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 6 回、2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（病病・病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域15領域のうち12領域（アレルギー、膠原病、感染症を除く）では定常的に、アレルギー、膠原病、感染症領域も非常勤医と連携して専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計10演題以上の学会発表（2021年度実績7演題、2022年度実績11演題）をしています.
指導責任者	石田　永(1名) 【内科専攻医へのメッセージ】 市立池田病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，同じ医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，GeneralityとSubspecialityとのどちらも追及できる可塑性があって，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します.
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医23名、日本内科学会総合内科専門医21名,日本消化器病学会消化器専門医9名,日本肝臓学会肝臓専門医6名、日本循環器学会循環器専門医4名、日本内分泌学会内分泌専門医3名、日本糖尿病学会糖尿病専門医3名,日本腎臓学会腎臓専門医3名,日本呼吸器学会呼吸器専門医5名,日本血液学会血液専門医2名、日本神経学会神経内科専門医3名ほか
外来・入院 患者数(内科系)	外来延患者数　343人/日　新入院患者数410人/月　（2025年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある15領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	地域医療支援病院 厚生労働省臨床研修指定病院（医科・歯科） 大阪府がん診療拠点病院 日本医療機能評価機構認定病院（3rdG：Ver.2.0） 卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定病院 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設

	日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本炎症性腸疾患学会指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本膵臓学会認定指導医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会研修認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本臨床神経生理学会認定施設 日本認知症学会教育施設 日本臨床細胞学会施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本栄養治療学会 NST（栄養サポートチーム）稼動施設 日本緩和医療学会認定研修施設

(6) 市立吹田市民病院

認定基準 【整備基準23】 1）専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･医師（非常勤職員）として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（病院総務室職員、公認心理師）があります。 ･ハラスメントに適切に対処するための部署（ハラスメント窓口担当）があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2）専門研修プログラムの環境	･指導医は24名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（病院長）（総合内科専門医かつ指導医）、プログラム管理者（内科部長）（総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績11回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（北大阪内科カンファレンス等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ･70疾患群のうち膠原病をのぞく全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ･専門研修に必要な剖検（2023年度4体、2024年度4体、2025年度4体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4）学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（年4回）しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（月１回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	火伏俊之 【内科専攻医へのメッセージ】 市立吹田市民病院は、大阪県豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療

	にも貢献できる内科専門医を目指します。 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （内科系常勤医）	日本内科学会指導医9名、日本内科学会総合内科専門医20名 日本消化器病学会消化器専門医8名、日本肝臓病学会専門医7名 日本循環器学会循環器専門医4名、日本糖尿病学会専門医3名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医5名、日本血液学会血液専門医3名、 日本神経学会神経内科専門医5名、日本アレルギー学会専門医（内科）1名、日本リウマチ学会リウマチ専門医2名 ほか
外来・入院患者数	延べ外来患者16,534名（1か月平均）　新入院患者871名（1か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医関連認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本超音波学会認定超音波専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 大阪府癌診療拠点病院指定書 臨床研修認定病院 など

（7）国立病院機構大阪医療センター

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構大阪医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対しては管理課長が適切に対処します。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 42 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修センターを設置します。 ・医療倫理は年 3 回開催される臨床研究セミナー内で講義され、専攻医は受講が義務付けされます。医療安全セミナーを年 14 回、感染対策セミナーを年 12 回開催し、専攻医に受講を義務付けます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 ・CPC を毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（法円坂地域医療セミナー、オンコロジーセミナー、緩和ケアセミナー）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的な余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的な余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 69 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会（適宜開催）と受託研究第 2 審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は臨床研究推進室が担当し、受託研究第 1 審査委員会（月 1 回）で審査しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。
指導責任者	柴山浩彦 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構大阪医療センターは、大阪府 2 次医療圏である大阪市東部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3 年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 42 名 日本内科学会総合内科専門医 29 名　日本内科学会専門医（新制度）7 名 日本循環器学会専門医 12 名　日本消化器病学会専門医 14 名 日本肝臓学会専門医 9 名　日本呼吸器学会専門医 7 名 日本腎臓学会専門医 3 名　日本糖尿病学会専門医 5 名 日本内分泌学会専門医 3 名　日本血液学会専門医 5 名 日本神経学会専門医 7 名　日本アレルギー学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 3 名　日本消化器内視鏡学会専門医 11 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名

外来・入院 患者数	外来患者　年間240,696 名　（1 ヶ月平均 20,058 人） 新入院患者 年間15,793 名　（1 ヶ月平均　1,316 人）
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら 幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　日本神経学会準教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設　日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設　日本胆道学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設　日本呼吸器内視鏡学会診療施設 日本腎臓学会研修施設　日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設　日本血液学会血液研修施設 日本脳卒中学会研修教育病院　日本脳神経血管内治療学会研修施設 日本感染症学会研修施設　日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設

(8) 大阪けいさつ病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型，協力型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります ・常勤医師（特定任期付職員）として労務環境が保障されています ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課厚生係）があります ・ハラスメント窓口（人事課）が整備されています ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩コーナー，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています ・院内に病児保育室があり，利用可能です ・託児手当があり，利用可能です（子が 3 歳に達する迄）
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 20 名在籍しています(2026 年 4 月現在) ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）），副統括責任者（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と内科専門医研修管理室を設置します ・医療倫理，医療安全，感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 16 回，2025 年度実績 16 回，2026 年度実績 11 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2025 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 13 回,2024 年度実績 13 回，2025 年度実績 9 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕をあたえます ・地域参加型のカンファレンス（天王寺区医師会・病院合同講演会年 1 回，臨床医講習会年 4 回，各内科診療科地域連携講演会年 5 回前後，夕陽丘緩和ケア連絡会年 3-4 回など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度実績 1 回，2024 年度実績 1 回、2025 年度実績 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門医研修管理室が対応します
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます ・専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 10 体，2024 年度実績 6 体，2025 年度実績 7 体）を行っています

認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，OA ルームなどを整備しています ・倫理委員会を設置し，定期的（2023 年度実績 12 回，2024 年度実績 12 回，2025 年度実績 12 回）に開催しています ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2023 年度実績 11 回，2024 年度実績 11 回，2025 年度　回実績）しています ・日本内科学会講演会（および内科学会ことはじめ）あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 5 題，2024 年度実績 5 題）をしています ・学会等への参加は出張扱いとし，出張費を支給しています（当院規定による）
指導責任者	飯島　英樹 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪警察病院は，大阪府大阪市二次医療圏の中心的な急性期病院であり，二次医療圏・近隣医療圏にある連携施設と内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 地域医療における救急診療の要として，「断らない医療をモットー」に二次医療圏のみならず，大阪府下・近隣府県の救急疾患・急性期疾患の医療に応需しております. 内科専門医外来，ＥＲ・総合診療センターにおける外来・当直研修を通じて，初期診療に十分対応しえる医師をめざした研修を，また，高齢者医療，慢性期疾患，癌疾患などの継続的な診療など，多数の症例を経験することができます. 一方，入院症例においては，入院から退院（初診・入院～退院・通院）経時的に，診断・治療の流れを経験することで，主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざしていただけます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 20 名，日本内科学会総合内科専門医 35 名 日本消化器病学会消化器専門医 16 名，日本肝臓学会肝臓専門医 9 名， 日本循環器学会循環器専門医 10 名，日本糖尿病学会専門医 5 名， 日本内分泌学会専門医 5 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名， 日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本感染症学会専門医 1 名， 日本救急医学会救急科専門医 6 名　　ほか　（2026 年 4 月現在）
外来・入院患者数 (2025 年度実績)	（病院全体）外来患者 34,639 名（1 ヶ月平均），入院患者 17,934 名（1 ヶ月平均） （うち内科系）外来患者 21，803 名（1 ヶ月平均），入院患者 12，483 名（1 ヶ月平均））
経験できる疾患群	きわめてまれな疾患をのぞいて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の

技能	症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療，病診，病病連携なども経験できます
学会認定施設（内科系）	日本内科学会　専門医制度認定教育病院 日本感染症学会　認定研修施設 日本肝臓学会　認定医制度認定施設 日本がん治療認定医機構　認定研修施設 日本救急医学会　専門医指定施設 日本呼吸器学会　認定施設 日本循環器学会　専門医認定研修施設 日本消化器内視鏡学会　専門医制度認定指導施設 日本消化器病学会　認定施設 日本神経学会　専門医制度認定準教育施設 日本糖尿病学会　認定教育施設 日本内分泌学会　内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会　認定研修施設 など

(9) 市立伊丹病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·伊丹市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課人事研修担当）があります。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 33 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）（内科指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ·医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 5 回，2020 年度実績 9 回，2021 年度実績 9 回、2022 年度実績 5 回、2023 年度 9 回実績）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2019 年度実績 12 回，2020 年度実績 9 回，2021 年度実績 8 回、2022 年度実績 8 回、2023 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（伊丹市医師会内科医会循環器フォーラム，伊丹市医師会内科医会糖尿病フォーラム，伊丹市医師会内科医会呼吸器疾患フォーラム，伊丹市医師会消化器勉強会。外科医会合同講演会，伊丹市医師会内科医会講演会，登竜門カンファレンス，神戸 GM カンファレンスなど）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年 9 月に第 1 回を開催，2017 年 5 月に第 2 回，2018 年 5 月に第 3 回を開催，2019 年 5 月に第 4 回を開催，2022 年 10 月に第 5 回を開催、2023 年 6 月に第 6 回を開催、2024 年 10 月に第 7 回を開催）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 58 以上の疾患群）について

	研修できます（上記）。 ･専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 10 体，2019 年度 13 体、2020 年度 8 体，2021 年度 9 体、2022 年度 12 体、2023 年度 6 体、2024 年度 9 体、2025 年度 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2019 年度実績 9 回，2020 年度実績 3 回，2021 年度実績 9 回、2022 年度実績 7 回、2023 年度実績 8 回）しています。 ･治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2019 年度実績 11 回，2020 年度実績 8 回，2021 年度実績 8 回、2022 年度実績 11 回、2023 年度実績 11 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 3 演題，2020 年度実績 3 演題，2021 年度実績 5 演題、2022 年度実績 3 演題、2023 年度実績 7 演題、2024 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	村山洋子 【内科専攻医へのメッセージ】 市立伊丹病院は，兵庫県阪神医療圏の中心的な急性期病院であり，阪神医療圏。近隣医療圏にある連携施設。特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として，入院から退院〈初診。入院～退院。通院〉まで経時的に，診断。治療の流れを通じて，社会的背景。療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 33 名，日本内科学会総合内科専門医 22 名， 日本消化器病学会消化器指導医 4 名,日本消化器病学会消化器専門医 7 名， 日本消化器内視鏡学会指導医 4 名，日本消化器内視鏡学会専門医 8 名， 日本肝臓学会指導医 1 名，日本肝臓学会専門医 4 名， 日本循環器学会循環器専門医 6 名， 日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名,日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名， 日本血液学会血液指導医 3 名,日本血液学会血液専門医 4 名， 日本糖尿病学会指導医 1 名,日本糖尿病学会専門医 4 名， 日本アレルギー学会指導医（内科）1 名，日本リウマチ学会指導医 1 名， 日本腎臓病学会専門医 1 名,日本老年医学会指導医 2 名， 日本臨床腫瘍学会指導医 1 名　日本高血圧学会　指導医 1 名 日本認知症学会　指導医 2 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 17,624 名（1 ヶ月平均）　新入院患者 904 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術、技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　臨床研修病院（基幹型） 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本循環器学会専門医制度研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本人間ドック学会専門医制度研修関連施設日本老年医学会認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本認知症学会専門医教育施設 など

（10）川崎病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·医療法人川崎病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ·各種ハラスメント相談窓口が医療法人川崎病院に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 16 名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（総合診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と内科専門医研修室を設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 6 回　適宜 e-learning 実施）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（院内学術集会，院内感染対策講習会，地域連携セミナー，兵庫区循環器研究会，兵庫区消化器連携セミナー，心不全カンファレンスなど(2025 年度実績 12 回)を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します.
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，インターネット（Wi-fi），統計ソフトウェアなどを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	飯田正人

	【内科専攻医へのメッセージ】 医療法人川崎病院は、兵庫県神戸医療圏の中心的な急性期病院であり、神戸医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名 日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本呼吸器学会専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名 日本透析医学会専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数	延べ外来患者 7,150 名(1 か月平均)　入院患者 6,712 名(1 か月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会暫定指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本大腸肛門学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本血液学会認定医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院

	日本動脈硬化学会専門医教育病院 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設　など

(11) 関西労災病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·関西労災病院常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ·ハラスメント防止対策委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·病院近傍に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 21 名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します. ·医療倫理（2025 年度実績 1 回）・医療安全（2025 年度実績 2 回）・感染対策講習会（2025 年度実績 4 回）を開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（感染対策地域連携カンファレンス；2025 年度実績 4 回，阪神がんカンファレンス； 2025 年度実績　乳がん 1 回、婦人科がん 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 67 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 7 体、2024 年度実績 6 体、2023 年度実績 7 体、2022 年度実績 10 体、2021 年度実績 12 体、2020 年度実績 10 体、2019 年度実績 10 体，2018 年度実績 12 体，2017 年度実績 13 体）を行っています.
認定基準	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています.

【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 10 回）しています. ·治験事務局を設置し，月 1 回臨床治験倫理審査委員会を開催（2024 年度実績 10 回）しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 2 演題）をしています.
指導責任者	和泉　雅章 【内科専攻医へのメッセージ】 関西労災病院は，兵庫県阪神南医療圏の中心的な急性期病院であり，阪神北医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4 名，日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会消化器指導医 10 名， 日本消化器病学会消化器専門医 18 名， 日本循環器学会循環器専門医 6 名， 日本糖尿病学会指導医 1 名，日本糖尿病学会専門医 2 名， 日本腎臓学会指導医 3 名，日本腎臓学会専門医 5 名， 日本透析医学会指導医 2 名，日本透析医学会専門医 2 名， 日本消化器内視鏡学会指導医 5 名，日本消化器内視鏡学会専門医 13 名， 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 2 名， 日本臨床腫瘍学会指導医 2 名，日本臨床腫瘍学会専門医 3 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 24,033 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,481 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 など

(12) 兵庫県立西宮総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室と最新の生成 AI・Wi-Fi インターネット環境があります. ·地方公務員法第 22 条の 2 第 1 項第 2 号の規定に基づく会計年度任用職員として正規職員に準じた労務環境が保障されています. また公舎等の利用が可能です. ·当センターに常勤の臨床心理士が職員のメンタルヘルス相談を随時行っています. そしてメンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）が兵庫県庁にあります. 希望者には毎年メンタルヘルスに関する健診を行っています。 ·院内にハラスメント委員会を設置しました. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，18 時まで保育時間を延長する延長保育を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 52 名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 2 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，ZOOM 配信により専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス（2026 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2020 年度実績 2 回・2 体分，2021 年度実施 5 体，2022 年度実施 5 体，2023 年度実施 1 体，2024 年度実施 3 体，2025 年度実施 0 体）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 69 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，血液，神経，アレルギー，膠原病，呼吸器，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 2 体，2021 年度 5 体，2022 年度実施 5 体，2023 年度実施 1 体，2024 年度実施 3 体，2025 年度実施 0 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 9 演題、2024 年度実績 4 演題、2025 年度実績 8 演題）をしています.

	・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 10 回）しています. ・治験センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 12 回）しています. ・臨床研究センターを設置しています. ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭演者としての執筆が定期的に行われています. ・臨床研修センター（前期・後期）を設置しています.
指導責任者	楢原　啓之（ならはら　ひろゆき） 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立西宮総合医療センター（2026 年 7 月兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院が合併移転）は、人口が増加している兵庫県西宮市の一等地（阪急電車今津線阪神国道駅から徒歩 1 分にあります. 兵庫県立病院の中で最も歴史が古く、診療科間の垣根が低いチーム医療・トータルケア（全人的医療）を実践しています. 兵庫県内および大阪府内の連携施設や大阪大学医学部付属病院・兵庫医科大学・関西医科大学・大阪医科薬科大学と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています. ・本プログラムは，初期臨床研修修了後に院内の内科系診療科のみならず連携施設と連携して，質の高い内科専門医を育成するものです. 医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，さらに医学の進歩に貢献して国内のニーズへの貢献を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 52 名，日本内科学会総合内科専門医 29 名・内科専門医 4 名，日本消化器病学会消化器病専門医 14 名，日本消化器内視鏡学会専門医 12 名，日本肝臓学会肝臓専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本腎臓学会腎臓専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 6 名，日本呼吸器学会専門医 4 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 4 名，日本神経学会認定神経内科専門医 3 名日本アレルギー学会専門医 2 名，日本血液学会認定血液専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数	兵庫県立西宮病院：外来患者 12,312 名（1 ヶ月平均）　入院患者 9,695 名（1 ヶ月平均延数） 兵庫県立西宮病院：外来患者 55,297 名/年　入院患者 48,857 名/年 西宮市立中央病院：外来患者 26,001 名/年　入院患者 20,440 名/年
経験できる疾患群	軟部肉腫等のきわめて稀な疾患を含めて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. 毎年 JMECC 講習会を主催します. 特に緊急心臓カテーテル検査・PCI，化学療法・肝がん経皮的治療・内視鏡治療においてはより高度な専門技術を習得することができま

	す.
経験できる地域医療・診療連携	救命救急センターと緊密に連携してドクターカー・DMAT カーを含めて超急性期症例を経験できます．2026 年 7 月には屋上にヘリポートを設置してドクターヘリを運用します．また急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会特別連携施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設 日本胆道学会認定指導施設 日本禁煙学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本臨床腎移植学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 など

(13) 川西市立総合医療センター

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（医事課職員担当）があります。 ·ハラスメント委員会が川西市立総合医療センター内、医療法人協和会内に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ·提携している保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 10 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療局長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（病院主催川西市地域医療連携勉強会、感染防止対策講習会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち全分野（少なくても８分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·７０疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても３５以上の疾患群）について研修できます。 ·専門研修に必要な剖検（2023～2025 年度平均 7.0 体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会が設置されています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１講演以上に学会発表をしています。

指導責任者	厨子　慎一郎
	【内科専攻医へのメッセージ】 川西市立総合医療センターは 2022 年 9 月に新規開院した川西市内最大の急性期病院です。阪神北医療圏域の中核病院として広く川西市、猪名川町にわたる高齢者の多い地域の多彩な疾患が経験可能です。内科以外の診療科とも協力して積極的に診療にかかわり、生涯にわたって学習する姿勢を大事にする医師を育成します。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医 9 名,日本消化器病学会指導医 6 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名、日本消化器内視鏡学会指導医 4 名,日本消化管学会胃腸科専門医 5 名、日本消化管学会胃腸科指導医 5 名、日本炎症性腸炎疾患学会 IBD 専門医 1 名、日本炎症性腸炎疾患学会 IBD 指導医 1 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本肝臓学会指導医 1 名、日本循環器学会専門医 5 名,日本脈管学会専門医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名、日本禁煙学会専門医 1 名、日本禁煙学会指導医 1 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会指導医 1 名、日本糖尿病学会指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名，日本内分泌学会指導医 1 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本高血圧学会指導医 1 名、日本老年病学会専門医 1 名、日本超音波学会専門医 1 名、日本超音波学会指導医 1 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本透析医学科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 17,355 名　　入院患者数 12,971 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある１３領域、７０疾患群のうち８領域５０疾患群以上の症例を幅広く経験できることができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験できることができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本高血圧学会研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設

	日本内分泌学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定教育施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本腹膜透析医学科認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本肺癌学会認定教育施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設認定など

（14）りんくう総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 １）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・りんくう総合医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）を設置しています。 ・「地方独立行政法人りんくう総合医療センターハラスメント防止要綱」に基づきハラスメント通報・相談窓口が設置されており、法人運営本部内部統制課が担当しています。同要綱に基づき、ハラスメント防止委員会が所要の措置を講じています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接する研修棟の敷地内に院内保育所あり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 ２）専門研修プログラムの環境	・指導医は12名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策研修会を定期的に開催 （2025 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（りんくう生涯教育セミナー、りんくう循環器ネットワーク研究会、りんくう糖尿病病診連携の会、泉州 COPD フォーラム、泉州消化器フォーラム、南泉州神経フォーラムなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも11分野以上）で専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 10 体）を行っています。

認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験事務局を設置し、定期的に治験委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会にて学会発表を行っています。
指導責任者	倭正也 【内科専攻医へのメッセージ】 りんくう総合医療センターは、大阪府泉州医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏および近隣医療圏にある連携施設での内科専門研修を経て、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、さらに、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもった内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名、 日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本不整脈心電学会専門医 1 名、 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)専門医 1 名、 日本消化器病学会認定専門医 5 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 5 名、 日本肝臓学会認定肝臓専門医 4 名、 日本腎臓病学会専門医 4 名、日本透析医学会専門医 3 名、 日本高血圧学会専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本造血・免疫細胞療法学会認定医 1 名、 日本輸血細胞治療学会認定管理師 1 名、 日本感染症学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名 日本呼吸器学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医 1 名、日本神経学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 1 名、 日本集中治療医学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本甲状腺学会専門医 1 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名 JMECC ディレクター1 名　ほか
外来・入院患者数 (内科系)	外来患者　6,437　名（平均延数／月） 新入院患者　3,564　名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	内科専門研修プログラム基幹施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本動脈硬化学会専門医制度認定教育施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本IVR学会IVR専門医修練認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設・指導医指定施設 日本呼吸器学会関連施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設　など

(15) 日本生命病院

認定基準 [整備基準 24] 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本生命病院常勤医師としての労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(臨床研修部及び総務人事グループ担当）があります。 ・ハラスメント相談窓口が設置されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 [整備基準 24] 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 20 名在籍しています。（2026 年 4 月現在） ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医 JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 の疾患群のうちほとんどの疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	・倫理委員会および治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	橋本　久仁彦 【内科専攻医へのメッセージ】 日本生命病院は、「済生利民」を基本理念とする日本生命済生会が昭和 6 年に設立しました。現在では 29 診療科・10 診療センター、病床数 350 を擁する大阪西部地域の基幹病院へと発展しており、予防から治療・在宅まで一貫した医療サービスの提供を実践しています。急性期医療だけでなく慢性期医療や地域医療にも貢献し、全人的医療を行うとともにリサーチマインドを持った内科専門医を育成します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 20 名、 日本内科学会総合内科専門医 20 名、

	日本消化器病学会消化器専門医 7 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 7 名、 日本肝臓学会専門医 4 名、 日本循環器学会専門医 5 名、 日本高血圧学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本内分泌学会専門医 3 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会専門医 1 名、 日本腎臓学会専門医 2 名、 日本透析医学会専門医 1 名、 日本老年学会老年病専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院 患者数（内科系）	外来患者 384 名（一日平均）　入院患者 146 名（一日平均）(2025 年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会専門医制度研修施設 日本胆道学会指導施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設

	日本アレルギー学会専門医準教育施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定制度認定施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本造血細胞移植学会非血縁者間造血細胞移植認定施設（診療科） 日本認知症学会専門医制度教育施設 （2026 年 4 月 1 日現在）

（16）医療法人回生会　宝塚病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･内科専門医特別連携施設です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･宝塚病院に任期付医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･企業連携型保育園の契約を積極的に進めています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 0 人です。 ･内科専攻医研修管理委員会にて、基幹施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･専攻医に地域参加型のカンファレンスへの受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記)。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記)。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 2 回）しています。
指導責任者	竹内　庸浩（循環器内科部長・救急部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は昭和 31 年の開院から宝塚市の救急病院として地域医療を支えています。一般床 131 床（HCU 8 床）及び透析ベッド 45 床を有しており、慢性腎不全だけでなく、急性腎不全に対する血液浄化療法にも対応しております。透析患者様に必要なバスキュラーアクセスに対し、シャント作成から経皮的シャント拡張術を行っております。腎臓内科をはじめ脳神経外科、消化器外科、整形外科、総合内科など幅広い救急及び慢性期診療を担っており、在宅診療部門も充実しておりますので退院後の在宅ケアにも関わることができます。
指導医数 （常勤医）	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名、 日本消化器病学会消化器病専門医 1 名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 1 名、 日本肝臓学会認定肝臓専門医 1 名

外来・入院患者数（内科系）	外来患者 37,961 名/年　新入院患者 2,259 名/年　※2025 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本脳卒中学会 1 次脳卒中センター

（17）大阪医科薬科大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･大阪医科大学附属病院レジデントとして労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 47 名在籍しています（下記）。 ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 医療安全 7 回，感染対策 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 13 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち,全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	今川彰久 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪医科薬科大学病院は，大阪府と京都との間に位置する三島医療圏に属し，人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは箕面市立病院と連携して内科医を育成することを目的とし，特に大学病院ならではの高度医療や多職種チーム医療を経験していただきます．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。どうぞ本プログラムにご参加ください。

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 47 名，日本内科学会総合内科専門医 57 名、日本消化器病学会消化器専門医 27 名，日本循環器学会循環器専門医 13 名，日本内分泌学会専門医 3 名，日本糖尿病学会専門医 6 名，日本腎臓病学会専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名，日本血液学会血液専門医 6 名，日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本アレルギー学会専門医（内科）1 名，日本リウマチ学会専門医 5 名，日本臨床腫瘍学会専門医 7 名，日本緩和医療学会 2 名 ほか
外来・入院患者数（2025 年度実績）	外来患者 13,065 名（1 ヶ月平均）　入院患者 7,688 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設

	日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

【別紙 4】箕面市立病院内科専門医プログラム管理委員会

（2026 年 4 月 1 日現在）

区分	委員名	担当
箕面市立病院	森谷　真之	プログラム統括責任者
	森谷　真之	神経内科分野責任者
	西澤　均	糖尿病・内分泌代謝内科分野責任者
	中原　征則	研修委員会委員長，消化器内科分野責任者
	田所　誠司	血液内科分野責任者
	北尾　隆	循環器内科分野責任者
連携施設担当委員長	世良　英子	大阪大学医学部附属病院
	岡内　幸義	市立豊中病院
	西尾　まゆ	大阪府済生会千里病院
	矢野　幸洋	国立病院機構大阪刀根山医療センター
	石田　永	市立池田病院
	中野　美佐	市立吹田市民病院
	柴山　浩彦	国立病院機構大阪医療センター
	飯島　英樹	大阪けいさつ病院
	村山　洋子	市立伊丹病院
	松田　守弘	医療法人川崎病院
	和泉　雅章	関西労災病院
	楢原　啓之	兵庫県立西宮総合医療センター
	厨子　慎一郎	川西市立総合医療センター
	倭　正也	りんくう総合医療センター
	橋本　久仁彦	日本生命病院
	今川　彰久	大阪医科薬科大学病院
オブザーバー	ー	内科専攻医代表 2名